

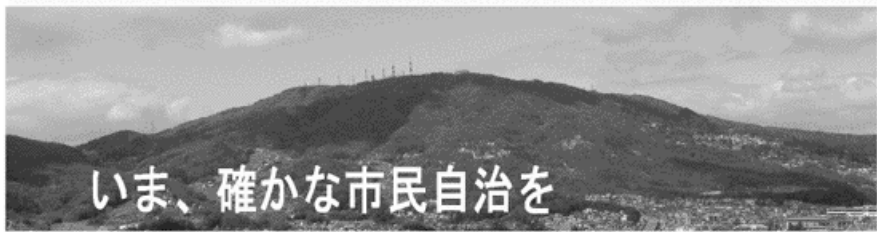
民主

PRESS MINSHU

号外 生駒市版

2011年1月1日

民主党プレス民主編集部
〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
電話03-3595-9988(代表)
press@dpj.or.jp
http://www.dpj.or.jp



いま、確かな市民自治を

「新しい公共」こそ 市民自治で

民主党政権は今、深刻な窮地に立っている……

政権交代で政策は変わりました。そんな風には見えなくても、不十分でも、政策が変われば社会は確実に変わります。そして、私たちがどんな政治を目指し、政策を作り出すかが問われています。

「市民を支えること」

働くこと、生活の糧を得ることは

容易なことではありません。しかし同時に、働くことよって人を支え、人の役に立つことは、人間にとって大きな喜びとなります。

市民と市民が支え合い、役にたちあつのが民主党が進めようとしている「新しい公共」です。人を支える役割を、公務員などの「官」と言われる人たちだけが担うのではなく、教育・子育て・まちづくり・防犯や防災・医療や福祉などに市民一人ひとりが参加することで、社会全体として応援しようというものです。政治にできることは、市民やNPOの活動を邪魔する余分な規制(役所の仕事と予算を増やすためだけの規制)を取り払うことくらいかもしれません。しかし、市民やNPOの活動を側面から支援していくことが、21世紀の政治の役割でしょう。

「地域主権」改革とは

そして何より、地域のことはその地域に住む市民が決めること、活気に満ちた地域社会をつくるためには「地域主権」こそが大切です。

どのような政策にどれだけの予算を投入し、どんな地域を目指すのか。これは本来、住民自身が考え、決めるべきことです。市民が主役となりつるため自主財源の充実、強化が必須です。

国と地方の関係も変えなければなりません。上下関係から、対等の立場で対話する新しいパートナーシップへ根本的な転換です。同時に国と地方が対等に協議する場の法制化を実現しなければならず、これこそが民主党の役割。市民主体の新しい発想、市民の自治が土台です。

謹賀新年



奈良県議会議員

民主党第2区総支部幹事長

高柳 忠夫

民主党へのご支援と激励に対して、厚く御礼申し上げます。生駒のまちとともに生活するハンディキャップを持つ人、お年寄りや子どもたちの助け合いネットワークづくりを今年のテーマにします。小さな地域の積み重ねで生駒・奈良の新しい姿を実現するため、今年も引き続いてのご支援をお願いいたします。

真価が問われる2011年



参議院議員

中村てつじ

一昨年9月の政権交代以来、私は2009マニフェストの実現を加速するため、法務大臣政務官、参院法務委員会筆頭理事として行動して参りましたが、未だ成果が表れたとは言えない状態です。

政権交代は民主党にとって「地域主権」改革でもありました。統一地方選挙が行われる今年には民主党にとって真価が問われる年になります。生駒市でも4月には県と市の地方選挙があります。市民の皆様が納得して頂ける政治の実現のために私自身、一身を賭して取り組む決意です。



民主党奈良県連代表 衆議院議員

滝 まさお

政権を担い2回目の春です。内政、外交とも課題山積ではありますが、少しでも国民の皆さんが幸福を感じていただける国づくりを進めていきたいと存じます。

国政においてみなさまにご心配をお掛けしており恐縮ですが、先の政権交代により、これまでの政権で果たせなかったことが実現できたことはご理解いただけたと思います。

いま県の政権交代が必要です。有権者の皆さん、この春議会の改革を進めようではありませんか。

生活の基本、公共交通をまもる

生駒市議会議員

おのの浩樹



いま、生活のために必要な「移動」に関わる問題が起っています。日常生活の自動車への依存度はいまなお高いものがあります。その反面利用者の減少等により路線バスなどの公共交通は運行数の減少、廃止といった厳しい状況に置かれています。

その結果、生活のために最低限必要な移動すら困難となる「移動制約者」問題が顕在化してきました。食料確保すら困難な「買物難民」問題も起っています。生駒市では環境基本計画で「家の300m圏内からバスや電車に乗れるまちをつくらう」と掲げていますが圏外のいわゆる「交通空白地区」があります。300m圏内でも傾斜地の多い地形から容易に移動し難いところもあります。

市民の移動に関する調査を市が実施しましたが、これによると最も自由に移動しているのは「マイカー族」。これに比べ、身近な人に送迎される「送迎族」やバス等を利用する「公共交通族」の移動は制約されています。運転免許の保有率を見ると現在80歳から84歳の男性が52.1%、女性は1.1%、65歳から69歳の男性では87.4%、女性は45.8%。このまま推移すれば十年後には多くの高齢者がマイカー移動することになる可能性があります。



コミュニティバス「たけまる号」

生活の基本、公共交通。福岡市では交通空白地対策や移動制約者にかかわる移動手段の確保をめざす条例が制定されています。

生駒でも論議を深め誰もが自由に移動できる仕組みづくりを進めなければなりません。

おのの浩樹

「フラーマックスツェ」市民参加の新しい形をつくる

生駒市議会議員

福中 まみ



「市民討議会」フラーマックスツェは、ドイツから始まりヨーロッパでは広く実施されている市民参加の方法です。

現在、各地で「市民討議会」が開催されていますが、そこでは、住民基本台帳から無作為に抽出された一般市民が、地域の課題について熱心に討議し、その解決策を探っています。2009年9月の段階で、「市民討議会」やこれに類した試みが、全国で延べ100回以上、開催されるに至っています。テーマにそって議論し、課題に対する意見をまとめ、合意形成されたものが平均的な市民の意見傾向としてまとめられます。それを、市民提言として行政に提出し公表もされます。



生駒市役所4階 大会議室 「いこま塾」

この手法が導入された経緯には、従来の公募型の市民参加手法による審議会・懇談会等に、いつも同じ人が参加し固定化しているという批判があったこともあります。市民討議会の参加者は、市民の縮図に近く、サイレントマジョリティの意見がわかるというメリットもあります。

アンケート調査の場合は、一方的で自分の立場でしか回答ができませんが、「市民討議会」の場合は、多様な意見を持つ市民が一堂に会して合意形成を図るということで、今後の市民参加のあり方や、市民意向の把握方法として、

評価できる手法と考えられています。

生駒市では良好な景観づくり、まちづくりに多くの市民の参画を目的に『いこま塾』を開催し、ここで初めて提案していた無作為抽出による市民参加手法が採り入れられました。これをさらに発展させ自治体と市民が「情報を共有」し、まちづくりを一緒に考え、「協働」していくことが必要です。

福中 まみ

「これからの福祉社会」の仕組みづくりに取り組みます

沢口ゆきふみ



社会の幸福度をどう高めるか。わたしは「福祉」と「相互扶助」に答えを求めます。

これまでの福祉は施設や制度の整備を優先してきました。今後は人の心が通い、教育・防災など多面的な連携を強化する福祉が必要です。それをわたしは「高度な福祉」と呼び、真の福祉充実社会を支える基礎であると考えます。

相互扶助とは人々のつながりです。それは社会にぬくもりと安心を生み、孤立と分断を防ぎます。一人ひとりの「健康・愛和・経済力」への自助努力、地域の「医療・食料・住居環境」の整備も住みよいまちづくりに欠かせません。

個の幸福の集積が地域全体の発展につながり地域の発展によって個が恩恵を得られる社会でありますように。現在の生駒市政との対話と調和を深めながら、公益に資する奉仕の精神で「幸福循環型社会」の仕組みづくりに邁進します。

沢口ゆきふみ

ご紹介した「いこま塾」の今後の開催予定です。

【講座内容】

⑤ 1月23日(日)9時

「みんなでつくる維持可能なまちづくり」

講師：

大阪市立大学大学院 嘉名光市 准教授

⑥ 2月20日(日)9時

「わいわいがやがやまちづくり」

(これからのまちづくり)

講師：近畿大学 久隆浩 教授

市役所4F大会議室

<傍聴ができます>